補助 世界を牽引する次世代クリエイター育成のための「ミュージック・イノベーション課程」の新設 （実施団体：学校法人東京音楽大学）

目的・目標

ヴィジュアル・コンテンツに効果的な音楽を付与できる作曲家・サウンドクリエイターの育成を目指し、作曲を専門として学ぶ学生を対象とした「ミュージック・イノベーション課程」を新設。2028年度の開設を目指す。

概要

作曲の技術に加え、海外連携機関・国内音楽業界団体と協働設計した科目により、デジタル・アナログを問わず音楽を具現化する力、チームによる問題解決力や実務能力を総合的に養う。

（区分・分野）
音楽

（対象となる職種）
作曲家、サウンドクリエイター

（育成人数）
50名／3年

3年目までの取組



アルス・エレクトロニカ ©Ars Electronica ／Robert Bauernhansl

令和10(2028)年度の新課程開設に向け、育成すべき人材像を明確化するため、メディア・アートおよびエンタテインメント業界の専門家へのヒアリングを実施する。得られた知見を基に、国内外の関連機関と連携し、国際的な発信や協働制作に必要なスキルの修得を目的としたカリキュラム、教員体制および英語教育の内容を検討する。あわせて、在学生を対象としたパイロット講座や海外関連イベントへの学生派遣を通じ、教育内容および国際的発信力の妥当性を検証する。これらの準備を踏まえ、令和8(2026)年度に新課程設置の告知を行う。

5年目までの取組



フランス国立音響音楽研究所（IRCAM）© quentin_chevrier

開設1年目:DAW（Digital Audio Workstation）を中心とした音楽ソフトを用い、ジャンル横断的な音楽作品の制作力を身につける授業と同時に、作品制作に必要な思考力及び英語を含む言語能力を養う授業を開始。
開設2年目：音楽が視覚表現に与える効果への理解を深めつつ、他専攻と協働し、デジタル・アナログ双方の奏法を取り入れた作品制作に取り組む。あわせて、国内外のイベントへのエントリーを段階的に検討するとともに、音楽業界における発信の動向に触れながら、クリエイターの就労環境や契約に関する学修を通じ、実社会において自立的に活動するための基盤を培う。

成果目標（見込）	目標値
国際的な活躍に必要なスキル習得のために開発・実証された育成プログラムの数	3年目：4件 5年目：4件
国内外の教育機関・専門機関・企業・団体等との連携数	3年目：　6件 5年目：12件
育成プログラムの参加者が世界的に認知されている海外の芸術祭・文化施設・大学等の教育機関への参画や招へいを受けた件数	3年目：2件 5年目：6件
育成プログラムの実証に参加した人数	3年目：50人 5年目：80人

中核となる指導者等

野平一郎（日本）
本学学長・作曲家・ピアニスト・指揮者・プロデューサー、日本芸術院会員

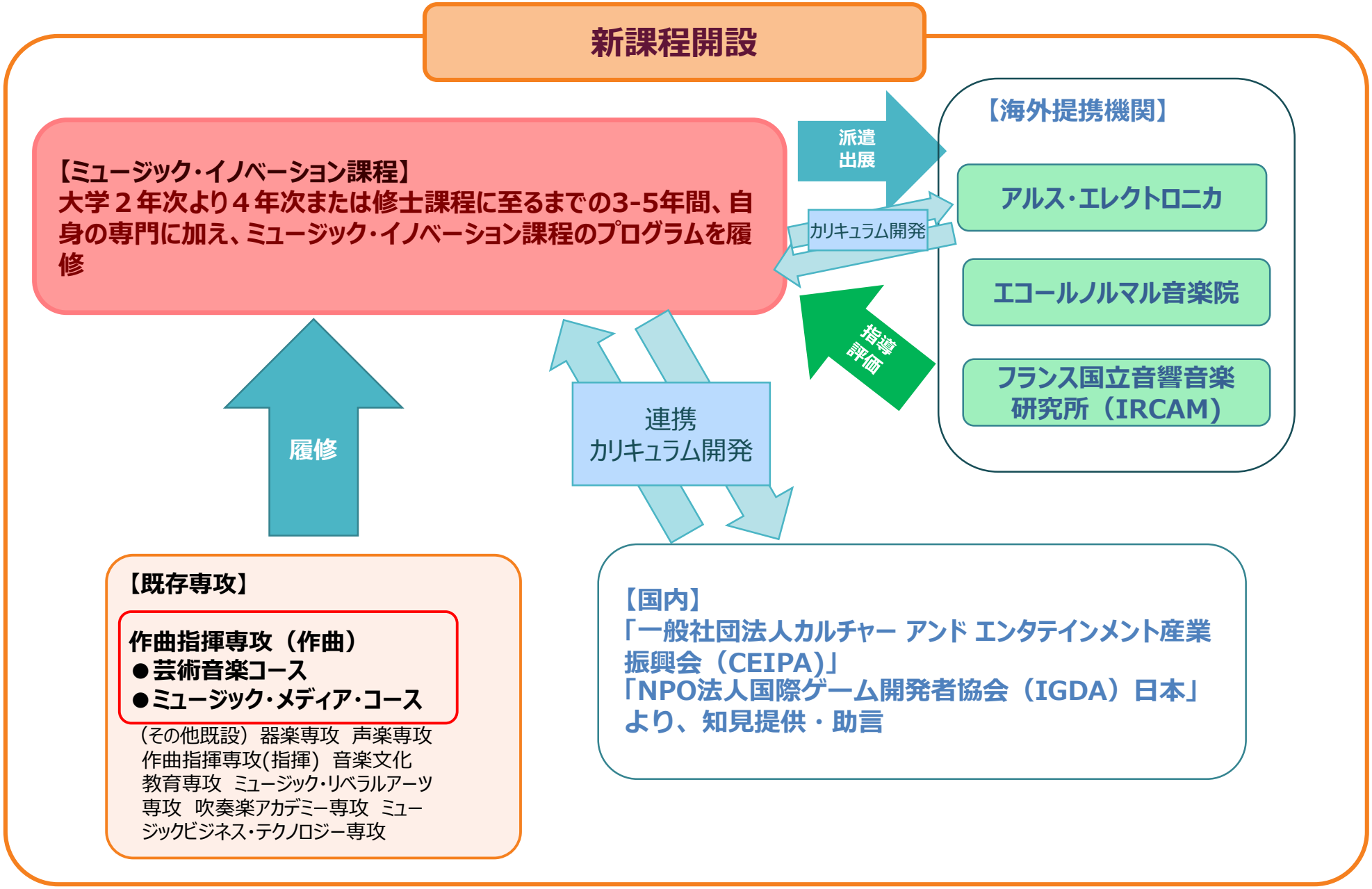


日本を代表する作曲家。1980年代よりヨーロッパにて作曲家・ピアニストとして活躍。デジタル音楽に関しても造詣が深い。代表作に《錯乱のテクスチュア第1番》《挑戦への14の逸脱》オペラ《マドルガーダ》などがある。

国際的な場での実践の取組例

アルス・エレクトロニカ（リンツ） フェスティバルやワークショップに参加
エコールノルマル音楽院（パリ） 教員の映画音楽コースでの研修。作品発表を行う。
フランス国立音響音楽研究所(IRCAM)（パリ） 毎年6月に実施されるフェスティバルMani-Festeアカデミーに参加

実　施　体　制


新課程開設
【ミュージック・イノベーション課程】
大学２年次より４年次または修士課程に至るまでの3-5年間、自身の専門に加え、ミュージック・イノベーション課程のプログラムを履修
派遣
出展
カリキュラム開発
指導
評価
【海外提携機関】
アルス・エレクトロニカ
エコールノルマル音楽院
フランス国立音響音楽研究所（IRCAM）
履修
連携
カリキュラム開発
【既存専攻】
作曲指揮専攻（作曲）
●芸術音楽コース
●ミュージック・メディア・コース
（その他既設）器楽専攻　声楽専攻
作曲指揮専攻(指揮)　音楽文化
教育専攻　ミュージック・リベラルアーツ
専攻　吹奏楽アカデミー専攻　ミュージックビジネス・テクノロジー専攻
【国内】
「一般社団法人カルチャー アンド エンタテインメント産業振興会（CEIPA）」
「NPO法人国際ゲーム開発者協会（IGDA）日本」
より、知見提供・助言